

40th
Tokyo
Art-Educational
Seminar

なぜ、美術を学ぶのか

令和5年度

第40回東京都中学校美術教育研究大会

第3ブロック（中野・杉並・練馬）杉並大会 報告書

目次

ごあいさつ

大会実行委員長挨拶	杉並区立松ノ木中学校	校長 渋谷 里美	・・・ 1
-----------	------------	----------	-------

I 全体会

全体会次第	・・・	3
基調提案	大会研究局長 中野区立中野東中学校 河内 智香子	・・・ 4～5
指導講評	文化庁参事官（芸術文化担当）付教科調査官 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 平田 朝一	・・・ 6～7

II 実践発表

分科会一覧	・・・	9
第1分科会 実践発表①	杉並区立和泉中学校 千野 希帆子	・・・ 10
実践発表②	練馬区立北町中学校 西 比呂子	・・・ 11
第2分科会 実践発表③	中野区立北中野中学校 重岡 いづみ	・・・ 12
実践発表④	杉並区立東田中学校 小豆澤 皓平	・・・ 13
第3分科会 実践発表⑤	練馬区立南が丘中学校 中山 貴子	・・・ 14
実践発表⑥	練馬区立大泉北中学校 升岡 佳代	・・・ 15

III 大会資料

大会実施要項	・・・	17～18
組織一覧	・・・	19

ごあいさつ

東京都中学校美術教育研究会第3ブロック大会 実行委員長
杉並区立松ノ木中学校
校長 渋谷 里美

この度は、令和5年度 第40回 東京都中学校美術教育研究会 第3ブロック（中野・杉並・練馬）杉並大会を開催することができましたことに、深く感謝申し上げます。

1年前に大会のテーマを検討する中で、美術科教師として持続可能な社会の担い手となる生徒に、コロナ禍における多くの制約や不自由を感じた今だからこそ、美術そのものの大切さを再確認させる必要性があり、生活に密着しながら、生活自体をより豊かにするために、改めて広く浸透させるべきであると強く感じました。そして、第3ブロックの美術科教師が、自ら美術科教師を目指した熱量とともに、美術本来の自由な発想や愛好することの楽しさ、素晴らしさを、生徒に味わわせることを念頭に置き、「なぜ、美術を学ぶのか」を本大会のテーマとして、また、「鑑賞から表現へ」、「生活や社会の中の美術」、「主題を生み出すことについて」を具体的な小テーマとして掲げました。これらのテーマのもと授業研究をする中で、授業の中での気付きや深まりが、学びに向かう生徒の姿から手応えとして感じられる展開となりました。

授業案の検討に多くの時間を要しましたが、検討する中で心掛けたことは、身近で手軽さを備えた手取りやすい題材設定でした。新しいものへの取組もあれば、古きを知りながら活用を展開させるなど日本の伝統文化の価値の重要性も再確認できる取組もありました。新旧の融合の中で、基礎・基本に立ち返って単元を設定したり、話し合い活動で友達からの柔軟なアイデアを取り入れたり、作品を鑑賞する際に積極的に ICT を活用したり、どれをとっても多くの美術科教師が試行錯誤をすることで生み出された知恵であったと感じます。取組んだ授業を録画し、発表当日に視聴しながら提案するなど、授業発表における ICT の活用にも工夫が見られました。

一方、実践を進める中で3区63校中専任の美術科教師が不在の学校が19校に及び、業務分担をまとめ、指示を出すこともままならない現状に苦慮しました。生徒数の減少における教員配置の影響を受け、各校に専任の美術科教師の配置がままならない現状があります。そのような状況の中で、コロナ禍で身に付けた ICT を活用し、出張時間を考慮してリモートで打合せを行うなど、時間の融通を付けて取り組みました。回数や時間設定など臨機応変な対応で、より小回りが効き、さまざまな意見を重ね合わせることができ、内容の深まりを実感することができました。

最後になりますが、夏の研修会から授業展開に関するさまざまな実践事例のご紹介や、多くのご助言をいただいた教科調査官の平田 朝一先生をはじめ、指導案の検討に関わる細部へのご指導をいただいた講師の先生方には厚く御礼申し上げます。

また、このような機会を与えていただいたことで3区の先生方の学びが深まったことはもちろんのこと、ご参観並びに配信をご視聴いただいた先生方において、また紀要や報告書をご覧いただいた先生方が、少しでも明日への授業展開に役立つ一助となることができましたなら幸いです。



I 全体会



大会次第

全体会① 13:30～13:55 会場：多目的室

司会	事務局長	杉並区立西宮中学校	猪口 正和
開会の言葉	実行副委員長	中野区立南中野中学校副校長	内田 善人
主催者挨拶	都中美会長	江戸川区立春江中学校長	横枕 耕史
実行委員長挨拶	大会実行委員長	杉並区立松ノ木中学校長	渋谷 里美
来賓挨拶	杉並区教育委員会	教育長	白石 高士
	東京都教職員研修センター研修部教育経営課	指導主事	平澤 卓磨
基調提案	研究局長	中野区立中野東中学校	河内 智香子

分科会 14:00～14:55

第1分科会	「鑑賞から表現へ」	会場：1-A 教室
第2分科会	「生活や社会の中の美術」	会場：1-B 教室
第3分科会	「主題を生み出すことについて」	会場：1-C 教室

※ 詳細は分科会一覧表 (P.8) をご覧ください。

全体会② 15:00～16:30 会場：多目的室

司会	事務局長	杉並区立西宮中学校	猪口 正和
分科会情報共有	分科会世話人	※詳細は P.9	
指導・講評	文化庁参事官(芸術文化担当) 付教科調査官 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 平田 朝一 先生		
謝 辞	都中美副会長	東村山市立東村山第五中学校長	白田 統志夫
次回大会実行委員長挨拶	第8,9,10ブロック大会実行委員長	東大和市立第三中学校長	中屋 珠美
閉会の言葉	大会実行副委員長	中野区立南中野中学校副校長	内田 善人

基調提案

第40回 東京都中学校美術教育研究大会 第3ブロック（中野・杉並・練馬）杉並大会テーマ

「なぜ、美術を学ぶのか」

大会研究局長 中野区立中野東中学校 河内 智香子

令和3年度から全面実施となった「中学校学習指導要領」美術編の改定は、2030年代の社会の在り方を見据えて進められ、情報化やグローバル化がさらに進み、人工知能の急激な進化など複雑に変化し続ける社会の中で、学校は何を教えるべきなのか、生徒にどのような力を付けさせるべきなのかを考えた結果が反映されています。その中で、豊かな創造性の育成を目標とする美術科の授業は、造形的な視点を豊かにもち、生活や社会の中の形や色彩などの造形要素に着目し、一人ひとりの生徒が自分との関わりの中で、普遍的な「美術」の価値を味わうとともに「社会の変化」や「生徒の変容」に対応していく必要があります。社会の変化が加速度的に進行している現在、私たち教師はその進行の中で変わるものと変わらないものを見極めながら意図的計画的に美術の授業を展開していくことが求められています。また、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善や、学校教育で育てるべき資質・能力の整理などが掲げられており、それらの根本理念として「社会に開かれた教育課程」の実現が求められています。

本大会では「なぜ、美術を学ぶのか」という大会テーマを掲げ、これまでの美術教育を踏まえながら、これからの美術教育にとって必要な学びは何なのか、生徒一人ひとりにとってこれからの社会を生きる中で求められる美術教育は何なのかを根本から考え、授業づくりや授業改善の提言をしています。

美術教育は、時代ごとに様々な変遷を遂げてきました。表現技法を身に付けさせることが第一の目標ではなく、表現することの喜びを味わわせ、美しさを感じる心を育成し、感性を豊かにし美術の基礎的能力を育成することを目指し、「芸術の教育」によって、人間形成のための感性を養うという大きな役割を担っている教科なのです。

これからの社会で生きる美術を考える中で生まれた本大会テーマと分科会テーマ

本大会テーマを考えるにあたり、「美術教育をする中で大切にしていること」や「これからの美術教育に求められている」ことなどを3区の先生方にアンケートをとりました。その中で、「なぜそれを学ばなければならないのか」ということを、教員の意識としても、生徒たちの意識としても弱いのではないかという指摘がありました。美術教育は、「生徒の主体的な学習への参加」を重視し、教師主導ではなく、生徒に内在する素質や創造力を引き出すことが大切です。本研究を通じて、美術教育は何を育成すべきなのか、生徒はどのような力を付ける必要があるのか、美術と社会はどのようにつながっているのかを、教師自身が根本に戻り考えることができるよう「なぜ、美術を学ぶのか」を提案します。



分科会テーマ1 「鑑賞から表現へ」

生徒は表現する中で常に作品や活動と向き合い、繰り返し鑑賞を行っています。本来、表現と鑑賞は一体であり、資質・能力を育成するためには一体的な指導が必要です。鑑賞活動を通し、様々な価値観や異なる見方・視点に気付くことで、芸術的な感性を生かした心豊かな生活や、社会的な価値を創り出す創造性につながります。鑑賞と表現を一体的・連続的に扱うことで、互いの学びに相乗効果を生み出し、学びの意味を意識した授業づくりができると考え、「鑑賞から表現へ」をテーマに設定しました。

分科会テーマ2 「社会や生活の中の美術」

美術の授業について、絵を実物そっくりに描いたり、彫刻刀が上手に使えるようになったり等を学ぶものだと思っている生徒は少なくないと思います。そうしたことも、自分自身が何を美しいと思ひ、何に興味を感じ、どんなものを創作したいと考えることとつながっています。しかし、毎日使う日用品や通りすがりの工事現場に置かれたアニマルガードを面白く感じる等、興味をもち日常の中の「美」を見つめ、社会が美術とのつながりにあふれていることに気付かせることはもっと大切です。授業で学習したことが、これからの自分たちの生活の中で生きてくるといふ実感をもてるよう、指導の改善・充実を図ることが求められていると考え「社会や生活の中の美術」をテーマに設定しました。

分科会テーマ3 「主題を生み出すことについて」

学習指導要領では、主体的で創造的な表現の学習を重視し、全ての事項に「主題を生み出すこと」が位置付けられています。題材の中で生徒自身が自分事としてとらえ、どのように主題を生み出していくのか、自己の表現を造形的な視点で捉え直し、表現を追求し高めていくには、教員としてどのような手だてや指導が必要なのかを考え「主題を生み出すこと」をテーマに設定しました。

人間の豊かさ、生活の彩りや潤いの中には美術は切っても切り離せないものです。その本質に立ち返り美術教育の大切さと素晴らしさを、携わるすべての教員が信念をもち今の中学校美術教育の中で確かなものにするために本大会が一助となることを願っています。



「なぜ、美術を学ぶのか ～未来を生きる子供たちに求められる学び～」

文化庁参事官（芸術文化担当）付教科調査官

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 平田 朝一

研究会では、横のつながり、縦のつながりを得られますし、自分自身の授業の振り返りもできる場所だと思っています。ぜひ皆さんで盛り上げて、美術教育を一緒によりよくしていけたらと思っています。

■分科会講評

分科会1「鑑賞から表現へ」実践発表① 私が表現する理由～あの日を忘れない

資料の2作品を比較鑑賞することにより、「あの時間」を表現したいという強い思いを抱かせることができている、鑑賞では作者の心情や表現の意図、工夫まで考え、感じ取っていくことができたと思います。

分科会1「鑑賞から表現へ」実践発表② 絵画のナゾを解明しよう！

ムンクの「叫び」を鑑賞し、子供たちが何を感じたのか。形や色彩、全体のイメージ等、造形的な視点で子供たちが捉え、作者の心情や表現の意図や工夫などを深く鑑賞できていたと思います。

分科会2「生活や社会の中の美術」実践発表③ 魅力を伝えるパッケージデザイン

子供たちが紙パックについて、相手に伝えるということをしっかり考え、客観的な視点を大切にされた内容になっていたと思います。2年生と3年生の目的や機能などを考えた発想や構想では、社会とのつながりを意識させた授業も大事になってきます。

分科会2「生活や社会の中の美術」実践発表④ 折って、切って～自分で生み出す美しさ

江戸時代から続く紋切り紙の図案といった美術文化に触れることはとても大事です。1年生では、自分を含めた身近な他者を対象として、自分の生活の中にどのように活かしていけるかも考え、発想していくことが大事です。

分科会3「主題を生み出すことについて」実践発表⑤ 共に過ごしたものを形に

自分が今まで大事にしてきた、ともに過ごしてきたもの、愛着があるものから主題を生み出していく内容でした。造形的な視点も大事にされたと思います。

分科会3「主題を生み出すことについて」実践発表⑥ 感じる漢字☆～楽しい絵文字のメッセージ～

言葉の意味からどのように相手に伝えるのかということ考えた内容でした。学年や発達段階、その学校の状況に合わせて、教師が生徒に何を学ばせるかをしっかり考えていくことが必要です。

6人の先生方、本当にありがとうございました。

■講演「子供たちに何を学ばせたいか」

これからの予測が困難な時代、将来活躍していく子供たちに何を学ばせるかを常に考えながら授業を行うことが大切です。

今回の学習指導要領では、中学校美術科の「教科の目標」に次のように示しています。

「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す」

この「生活や社会の中の美術や美術文化」と生徒たちが将来的にどう豊かに関わっていくのが大事です。そのためには造形的な見方・考え方を働かせるということがとても重要です。今回の改訂では、造形的な視点を豊かに持ち、対象や事象をとらえて創造的に考えを巡らせる、そういう資質・能力の育成を重視しています。

「造形的な見方・考え方」とは、「美術科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方として表現および鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値を作り出すことが考えられる」ことです。また「造形的な視点」は、「造形を豊かに捉える多様な視点であり、形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりする視点」のことで、私たちは日々、さまざまな色彩や形に囲まれているのですが、それに気づかない生徒もいるのではないのでしょうか。どれだけ多くのよさや美しさが自分の身近にあったとしても、造形的な視点がなかったら気づかずに通り過ぎてしまいます。よさや美しさなど価値や心情を感じ取る力を十分に育ててあげることが大事です。その視点を子供たちに気付かせてあげると、アンテナができ、子供たちがしっかりと感じ取れるようになっていくわけです。

造形的な見方・考え方を働かせるためには、表現及び鑑賞、それぞれの活動において造形的な視点を基に、どのような考え方で思考するかということを一一人の生徒にしっかりとさせることが必要です。例えば、表現の学習ならば、感じ取ったことや考えたこと、自己の表したいことを重視して発想や構想することや、目的や機能などを踏まえて発想や構想するなど、発想や構想の考え方にも違いがあります。美術ではこういう考え方を子供たちにも理解させていくことが必要です。

中学校3年間は、子供たちにとってはとても大切な時間です。この3年間の間に我々教師が、生徒に美術とどのような出会いを演出することができるかを考えることが重要でしょう。生徒が生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることができるように、ぜひ今後とも頑張っていただけたらと思います。



Ⅱ 分科会



第1分科会 「鑑賞から表現へ」 会場：1-A 教室

- 実践発表① 「私が表現する理由 -あの日を忘れない-」
第3学年 内容：A表現 絵や彫刻など
杉並区立和泉中学校 千野 希帆子
- 実践発表② 「絵画のナゾを究明しよう！」
第2学年 内容：B鑑賞 絵や彫刻など
練馬区立北町中学校 西 比呂子
- 世話人 杉並区立高井戸中学校 滝口 浩史
記録 練馬区立谷原中学校 高野 朱未
指導・助言者 板橋区立桜川中学校長 前田 康夫 先生

第2分科会 「生活や社会の中の美術」 会場：1-B 教室

- 実践発表③ 「魅力を伝えるパッケージデザイン」
第3学年 内容：A表現 デザイン・工芸など
中野区立北中野中学校 重岡 いづみ
- 実践発表④ 「折って、切って ～自分で生み出す美しさ～」
第2学年 内容：A表現 デザイン・工芸など
杉並区立東田中学校 小豆澤 皓平
- 世話人 杉並区立高円寺中学校 鈴木 ひとみ
記録 中野区立南中野中学校 長瀬 裕里子
指導・助言者 昭島市立瑞雲中学校長 山下 久也 先生

第3分科会 「主題を生み出すことについて」 会場：1-C 教室

- 実践発表⑤ 「共に過ごしたものを形に」
第3学年 内容：A表現 絵や彫刻など
練馬区立南が丘中学校 中山 貴子
- 実践発表⑥ 「感じる漢字☆ ～楽しい絵文字のメッセージ～」
第1学年 内容：A表現 デザイン・工芸など
練馬区立大泉北中学校 升岡 佳代
- 世話人 練馬区立三原台中学校 須賀田 美佐子
記録 練馬区立練馬中学校 志村 美智子
指導・助言者 世田谷区立砧南中学校長 松永 かおり 先生

第1分科会

「鑑賞から表現へ」

私が表現する理由 —あの日を忘れない—

A表現 絵や彫刻など

【対象】 杉並区立和泉中学校 3年

【授業者】 教諭 千野 希帆子

会場：1-A 教室

時間：14:00～14:55

世話人：杉並区立高井戸中学校 滝口 浩史

記録：練馬区立谷原中学校 高野 朱未



実践発表① 私が表現する理由 —あの日を忘れない—



実践発表② 絵画のナゾを究明しよう！

授業者より

「なぜ美術を学ぶのか」という大会テーマのもとで、「鑑賞から表現へ」という分科会テーマを考えたとき、生徒たち一人一人が自分を「表現者」として見つめる機会を作りたいと思った。上手に描けるから画業を生業としている人はいる。だけど、絵を描く人間すべてが絵を上手に描くわけではない。そもそも絵の上手い・下手の基準は誰がどうやって決めるものなのかもわからない。そして、誰かに対して特別なメッセージを伝えたい人が絵を描くわけではない。自分の中のどうにもならない感情に整理をつけるために描かれる絵はたくさん存在する。本授業では、鑑賞の中で画家自身が表現に至った理由に注目することで、「表現する理由というのは『自分だけのため』のものでいい」ということを生徒たちに実感させたかった。生徒たちが将来、何かに行き詰まったとき、感情を発散したいときに、「絵を描く」ということが選択肢の一つになればいい、そんなことを願いながら実施した授業であったと振り返る。

大会当日、初めて学外に出された生徒の作品と、それを鑑賞する人々の姿を見て、不思議な気持ちになった。飾られた作品を、見ず知らずの人々がじっと見つめ、何かを感じ取ろうとする姿を、生徒たちに見せてあげたかったと思った。緊張していて、自分の発表のことはあまり良く覚えていないが、生徒の作品を見ている人の姿だけは覚えている。生徒たちが苦しんで模索した日々を知っているからか、自分の作品ではないけれど嬉しかった。「この子はですね…」といろいろ伝えに行きたい気持ちを抑えながらその姿を眺めた。

講評で前田先生が「一人一人が価値を想像できる人に育てたい」、「間違っていないから、価値を見出してほしい」と仰っていた。それを聞きながら、「美術の先生ってつくづく不思議な存在だ」と感じた。そして、「果たして自分は、それをどれくらい言葉で伝えてあげたのだろうか」と考えた。きっともっと伝えてあげてもよかったはずだ。自分になりたかった「美術の先生」を思い出す1日だった。

絵画のナゾを究明しよう！

B鑑賞 絵や彫刻など

〔対象〕 練馬区立北町中学校 2年

〔授業者〕 教諭 西比呂子

授業者より

今回の鑑賞活動では、生徒が作品から感じた第一印象をもとに「なぜそのような印象を受けたのか」というナゾに迫るために、形や色彩などが鑑賞者の感情にどのような効果をもたらすのか学び、同じ印象を抱いた生徒同士でグループになって意見を出し合い、グループ同士の意見を共有することで見方や感じ方を広げる活動になるように工夫した。

鑑賞活動後の制作では、形や色彩などの工夫について生徒と話す「爽やかな印象の青色にするためにはもっと明るくしよう。」「ここは少しくねくねさせた方が見る人にイメージが伝わるかも。」など、アイデアを出すときの視点の広がりを感じた。授業者とのやりとりのなかでも「私の作品の意図、伝わりますか？」と作品を見せながら聞く生徒もあり、鑑賞者を経験したから得ることができた考え方だと感じた。

質疑応答の中では「生徒が形や色彩などではない部分に着目したらどのように軌道修正をするのか。」という質問があった。作品から多様な着眼点を見出すことは良いことなので、生徒の視点に最大限に尊重しつつ「その部分が印象に残っているのはなぜなのか。」と教員がファシリテーターとなって、多様な視点や気づきを与えることで、形や色彩などという絵画ならではの表現へ思考を広げることができるのではないかと考えている。

絵画を自己の着眼点から究明し、言語化、共有していくことで、生徒自身の自己理解にもつながっていく題材になったのではないかと考える。



指導・講評

〔助言者〕 板橋区立桜川中学校長 前田 康夫

助言者からの講評

今回の事例発表では、学習指導要領にきちんと準じた授業展開を行っていた。今後美術の教師には、美術が嫌いな生徒や苦手な生徒を出さないようにしてほしい。昔は美術に限らず、一斉授業で「上手いかない時はこうしなさい」などの断定的な一斉指導を行い、一つの目標に向けてどれだけ上手い作品を作れるかなどを考えさせていたかもしれない。しかし、今は一人ひとりの生徒が自然や生活、社会、色々な事や人との関係の中で価値を創造することができるようになることが大切である。今回の授業展開の中で、価値を見出すことが難しく、発想が浮かばない生徒に対しては、「辛かった」「楽しかった」などの感情的な経験や言葉でヒントを与えたり、マッピングで生徒の発想を引き出し、関連付けた言葉として表現したりしていた。つまり、生徒たちが上手いかないときこそ、教師が子どもの感性を引き出し、日常の場面から感じ取らせるアドバイスをしていく。そして、上手い生徒だけではなく、全員が自分の感じ方に自己肯定感をもって表現していけるようにすることが重要である。

また、作品に対しての感じ方は人それぞれであり、人と違うことが間違いではなく、正解があるわけでもない。ICTなどを活用し、他の人の感じ方も共有する。その上で、生徒が主体的に作品制作や鑑賞などに関わって、感じ取ったものを自分の言葉や絵で表現していけるようにしてほしい。その後の評価については、完成した作品と発想や構想からどんな表現にしたかったかの過程を合わせて見てほしい。そして、それらのことを踏まえて、生徒が自ら主題を生み出して表現しようとしたことを褒められると、「美術が苦手」と感じる生徒もいなくなるのではないと思う。評価をするために授業を考えるのではなく、教師自身が感動し、新たな発見や気づきなど生徒と一緒に楽しい時間を過ごせる授業を行うことで、生徒も楽しく授業に取り組むことができるのではないと思う。

第2分科会

「生活や社会の中の美術」

会場：1-B 教室
 時間：14:00～14:55
 世話人：杉並区立高円寺中学校 鈴木 ひとみ
 記録：中野区立南中野中学校 長瀬 裕里子



実践発表③ 魅力を伝えるパッケージデザイン



実践発表④ 折って、切って ～自分で生み出す美しさ～

魅力を伝える パッケージデザイン

A表現 デザイン・工芸など

【対象】 中野区立北中野中学校 3年
 【授業者】 教諭 重岡 いづみ

授業者より

今回の研究を通して“ねらい”を明確にして指導することの大切さを痛感した。

私は「社会性のあるテーマ」に着目し、授業を行った。変化の多い社会や生活の中で、これから社会で必要とされる、自分なりに課題に気づいたり、多様な他者と協働して課題解決したり、情報を再構成して新たな価値につなげる力を育みたいという思いがあったからだ。具体的には①自己理解・自己肯定感②創造的表現③多様な価値観、この3点を生徒が身につけることができるよう留意して指導した。

全12時間の制作を通して、多くの生徒が社会と美術とのつながりに気付き、考えを深めることができた。また、生徒が主体的に心豊かに工夫して表現することを思いきり楽しむ場面が見られた。生徒同士が関わり協働する中で、個々が持つ内在する力を引き出すことができた。

一方、伝えたいことが多すぎ、ねらいが分かりづらくなってしまった。改善策として中学校で学ぶ3年間で身につけさせたいことを整理する。生徒自身が身につけた力を明確に感じ取り、これからの生活に生かしていけるよう、私自身も工夫して生徒の可能性を引き出すために計画を立てる必要がある。

今後、私たちが生徒に“何を学ばせようとしたのか”そして学んだことを“何に使うのか”題材の面白さだけに目を向けず、中学3年間でバランスよく指導事項を網羅し、生徒が最終的に自分で考え力を発揮できるよう方向性を定めて指導していきたい。美術科として、生徒の取り組む姿や作品を広く周囲に発信し、美術を共有、広めていく所存である。



実践発表④ 14:20～14:40

折って、切って ～自分で生み出す美しさ～

A表現 デザイン・工芸など

[対象] 杉並区立東田中学校 2年
[授業者] 教諭 小豆澤 皓平

授業者より

本題材では昔ながらの紋切り遊びを通して、人々の生活のなかで息づいていた美術との繋がりを実感する授業としました。ほとんどの生徒にとって、あまり触れたことのない題材であり、新鮮さと驚きを感じながら制作に取り組む様子が見られました。初めは紙を折るイメージが持てず、苦戦する姿もありましたが、ポイントを理解してコツをつかんでいくと、様々な形を作り出すことが出来るようになっていきました。

今回の発表をさせていただいた中で、美術の授業における、生徒への問いかけの重要性に改めて気づくことが出来ました。紋切りで何ができるか、生徒たちに問いかけ、生徒たちが考えを出し合うことで、自分の生活と結び付けて考えを巡らせ、身の周りの社会にも目を向けていくことができると考えます。本来、美術とは生活や社会との関わり方のひとつであると言えます。本題材を通して、自らの生活を彩ることや、社会のなかのどのようなところで美術の考え方が生かされているか、考えたり、気づいたりするきっかけになればと思います。

また、鑑賞についても改めて考えるきっかけになりました。生徒が本物に触れ、体験することで造形的な視点を増やしていきたいと考えます。生徒たちの日々の生活のなかで気づかずに流れていく風景のなかにも、たくさんの美しさがあり、人々の思いが詰まっていることに考えを巡らせることも生活を彩ることの一つだと思えます。

本授業のまとめとして、生徒が美術室内の思い思いの場所に作品を飾り、相互鑑賞会を行いました。作品の色と形から、季節の移ろいを感じ取る生徒や、全体の空間に注目して雰囲気の違いに触れる生徒もいました。展示作業のなかでは、作品がより良く見えるためにどのように展示するか生徒同士で意見を出し合う場面も見られました。この学びを生かして、他の題材でも生徒同士が主体的に美術に関わる活動に繋がっていきたく思います。

14:40～14:55

指導・講評

[助言者] 昭島市立瑞雲中学校長 山下 久也

助言者からの講評

どちらの授業も「生活や社会の中の美術」というテーマに合わせて工夫されたところが見られた。このテーマは、学習指導要領のA表現1（イ）に近く、「伝える」、「使う」を意識して授業を行っていた。

重岡先生の授業では、三年生の授業ということで自由度の高い題材だった。生徒たちがよく考えながら制作をしていた。しかし、その反面、「何が正しいのか」と悩んでしまう生徒もいた。「何をねらいとするか」を明確にした上で「自由度」の高い授業を考えることで生徒たちも安心して授業に取り組める。指導計画も計画的で授業の流れがよかったことからブラッシュアップすることで、より高い次元で生徒たちは制作ができると感じ、様々な可能性がある授業であった。

小豆澤先生の授業では、材料や道具を限定することで、一年生でも取り組みやすく安定した題材だった。計画性と偶然性のバランスが取れているところが良い部分であった。短い時間の中でも試行錯誤する時間が大切だと感じた。試行錯誤する中で、生徒自身が新たな発見をすることで新たな学びとなる。また、目的がどこに向かって行くかを明確にすることが大切である。飾る場所を指定して、「そのためにはどうすればよいか」を考えさせることもこの授業では大切である。

どちらの授業でも感じたことは、題材を考えて年間指導計画を組み立てるのではなく、「どんなことを教えたい」から「この題材」で授業するという。また、生徒の発達段階で材料や技法の自由度を変化させることが重要だということである。これらを考えた上で三年間の年間指導計画を立てると良い。

今回のメインテーマ「なぜ、美術を学ぶのか」は、他の教科の先生方にも実感してほしい。そのためには、「どうして美術は良いのか」こちら側から発信していかなければいけない。そこで重要なのが授業でのねらいである。そして、成長段階を踏まえてこういう学びをさせている意図が伝わらなければいけない。制作している姿、作品から語られるようになれば良いと考える。

第3分科会

「主題を生み出すことについて」

A表現 絵や彫刻など

【対象】 練馬区立南が丘中学校 3年

【授業者】 教諭 中山 貴子

会場：1-C 教室

時間：14:00～14:55

世話人：練馬区立三原台中学校

須賀田 美佐子

記録：練馬区立練馬中学校

志村 美智子



授業者より

研究テーマである「主題を生み出すことについて」において、本題材の導入部であるモチーフ選びの構想段階を取り上げ、研究発表では指導計画の1時間目に行った内容を中心に紹介した。

今回の題材は、作者の身近にあるものを塑造で表すこととした。作者と一緒に過ごした時間が痕跡となって残ったものや、日常の一場面を切り取って固めたようなものをイメージさせ、生徒自身にとって身近なものや思い出深いものからモチーフの設定をするよう促した。発表後にいただいた「一定の枠を設けて形に収束させながら発想を広げるためにしている工夫はどんなことか。」という質問への回答もこの部分をピックアップし、「ペンケースそのものを制作するだけではなく、文房具が飛び出ているような生活の一場面が思い起こされるような状態を表すことなど例として示した。」と返答させていただいた。

生徒が自分はこんなものを作りたい、こんな表現をしたいと意欲をもって豊かに発想を始めるきっかけ作りとなる、導入部での鑑賞は大切なプロセスであると考えている。生徒作品の提示は写真での紹介になってしまったが、授業を受けた生徒たちは関心をもって鑑賞を行ない、粘土で再現された造形の面白さに注目する様子も見られた。

加えて、今回使用した加工粘土だからできる成形の方法や紹介した生徒作品で表現した手段について情報提供したことを紹介した。

その後、候補として持参したモチーフをクラスの仲間と見合い、どのモチーフが魅力のある作品になりそうか、どんな表し方をしたら作者の身近にあるものをより効果的に表現できるかなどの意見を出し合い、モチーフ決定における参考にさせた。

生徒たちは持参したものへの想いに加え、造形的な面白さ、より日常の光景を再現できる表現の工夫などを考え合わせ、自分が表したいと思う形について考えを深めていった。

生徒が作品制作においてどんな表現をしたいのかを考えるために必要な「イメージをもたせること」「必要な情報を提供すること」において今回は上記のような手段を用い、生徒が自分の考えを整理する手助けとなるようなワークシートを活用したことを紹介した。



実践発表⑤ 共に過ごしたものを形に



実践発表⑥ 感じる漢字☆ ～楽しい絵文字のメッセージ～

実践発表⑥ 14:20～14:40

感じる漢字☆ ～楽しい絵文字のメッセージ～

A表現 デザイン・工芸など

〔対象〕 練馬区立大泉北中学校 1年
〔授業者〕 教諭 升岡 佳代

授業者より

絵文字は、文字の一部を絵に変えたり、文字全体を装飾・変形させたりして文字の意味やイメージをより強く見る人に伝えようとするものである。日常的に使われている漢字をモチーフにしたデザインを考えるということで、生徒にとっても親しみやすく取りかかりやすい題材である。授業では、自分の思いを熟語で表し、文字に込められた意味を自分なりに心の中をアレンジすることで主題を生成するようにした。自分をより表現できるように、自己紹介のつもりで、所属する部活動を表すアイテムや自分の好きな物・ことをわかるようにした。また、デザイン会議を行い、お互いの表現意図や工夫などについて意見交流する場を設けた。

最も伝えたい部分を伝えるために、工夫の仕方やアイデアの取捨選択を行い、文字の意味が伝わる絵文字であるかどうかを再度考えて振り返る様子が見られた。また、配色や色の塗り方にこだわる生徒も多く見られた。鑑賞においても、「絵が上手」といった視点からの対話ではなく、制作者の思いや表現工夫などに着目して交流する姿が確認できた。

作品として表現することは、形や色からイメージをふくらませ、直感したことや表したい思いをもとに表し、自分の納得する形を追求することであると考える。美術の表現活動や鑑賞活動を通して、人生に彩りを与え、その後の考え方や生き方にかかわっており、大会テーマである「なぜ、美術を学ぶのか」のテーマについて、生徒とともに考えることができた。今後も研鑽を積み、生徒の能力を高める授業実践を行いたい。



14:40～14:55

指導・講評

〔助言者〕 世田谷区立砧南中学校長 松永 かおり

助言者からの講評

今大会テーマである「なぜ美術を学ぶのか」は、美術科教員としていつも心に留めておかななくてはならないものである。学習指導要領の美術科の目標は、美術を通じて将来にわたって人生を豊かにし、生活や社会に関わっていくことにある。表現・鑑賞の活動はあくまでも手段であり、作品の仕上がりや完成度を上げることが目標ではない。制作のプロセスや鑑賞活動を通して、感性や創造性を育てていけるような仕組みのある題材づくりが非常に重要になっている。

分科会テーマである「主題を生み出すことについて」は、美術科の目標の(2)思考力・判断力・表現力に関わる部分である。今回の発表事例は愛着のある物をモチーフにした立体作品制作と、レタリングを使った創作絵文字である。どちらも題材としてはオーソドックスでよく扱われるものだが、主体性を促す工夫や、生徒同士が対話し考えを深めていく設定が見られ、主題の生成に効果が見られた。

生徒が題材を通して楽しみながら制作する中で、自分と向き合い、自分なりの意味や価値を作り出す場面を設定し協働的な活動を盛り込むことで、思考力・判断力・表現力を働かせる場ができ、生徒にとって必然性のある授業となっていく。同じ題材で授業をしても、何を身につけさせたいか、学ばせたいのかは、目的の設定や効果を考えた工夫によって変わっていく。

それぞれの先生が自分の授業に当てはめて考えると良いだろう。



Ⅲ 大会資料



令和5年度 第40回 東京都中学校美術教育研究会 第3ブロック大会（中野・杉並・練馬）杉並大会 実施要項

1 大会テーマ	全体テーマ	なぜ、美術を学ぶのか		
	分科会テーマ	1 鑑賞から表現へ 2 生活や社会の中の美術 3 主題を生み出すことについて		
2 日時	令和6年2月7日（水）13：30～16：30			
3 時程	全体会①	13：30～13：55	会場：多目的室	
	司会	事務局長	杉並区立西宮中学校	猪口 正和
	開会の言葉	実行副委員長	中野区立南中野中学校副校長	内田 善人
	主催者挨拶	都中美会長	江戸川区立春江中学校長	横枕 耕史
	実行委員長挨拶	大会実行委員長	杉並区立松ノ木中学校長	渋谷 里美
	来賓挨拶	杉並区教育委員会	教育長	白石 高士
		東京都教職員研修センター研修部教育経営課	指導主事	平澤 卓磨
	基調提案	研究局長	中野区立中野東中学校	河内 智香子
	分科会	14：00～14：55		
	第1分科会	「鑑賞から表現へ」	会場：1-A 教室	
	第2分科会	「生活や社会の中の美術」	会場：1-B 教室	
	第3分科会	「主題を生み出すことについて」	会場：1-C 教室	
		※詳細は P.9		
	全体会②	15：00～16：30	会場：多目的室	
	司会	事務局長	杉並区立西宮中学校	猪口 正和
	分科会情報共有	分科会世話人 ※詳細は P.11		
	指導・講評	文化庁参事官（芸術文化担当）付教科調査官 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 平田 朝一 先生		
	謝 辞	都中美副会長	東村山市立東村山第五中学校長	白田 統志夫
	次回大会実行委員長挨拶	第8,9,10ブロック大会実行委員長	東大和市立第三中学校長	中屋 珠美
	閉会の言葉	大会実行副委員長	中野区立南中野中学校副校長	内田 善人

4 会 場

杉並区立泉南中学校 杉並区堀ノ内1-3-1 (丸ノ内線 方南町駅下車 徒歩2分)



全体会 会場： 3階 多目的室

分科会 会場： 3階 1-A 教室 / 1-B 教室 / 1-C 教室

教材展示会場： 3階 被服室



組織一覽

総務

都中美会長	横枕 耕史	江戸川区立春江中学校長
都中美事務局長	内田 善人	中野区立南中野中学校副校長
大会実行委員長	渋谷 里美	杉並区立松ノ木中学校長
副実行委員長	内田 善人	中野区立南中野中学校副校長

事務局

局長	猪口 正和	杉並区立西宮中学校
次長	落合 完太	練馬区立練馬東中学校
局員	佐々木美緒	杉並区立東原中学校
	馬場 帯刀	杉並区立向陽中学校
	池田 葉子	中野区立緑野中学校
	須藤 美穂	練馬区立田柄中学校

研究局

局長	河内 智香子	中野区立中野東中学校
次長	鈴木 ひとみ	杉並区立高円寺中学校
	須賀田美佐子	練馬区立三原台中学校
局員	千野 希帆子	杉並区立和泉中学校
	大濱 聡平	杉並区立松溪中学校
	滝口 浩史	杉並区立高井戸中学校
	小豆澤 皓平	杉並区立東田中学校
	長里 祐花	杉並区立中瀬中学校
	石坂 洋子	杉並区立宮前中学校
	長瀬 裕里子	中野区立南中野中学校
	重岡 いづみ	中野区立北中野中学校
	西 比呂子	練馬区立北町中学校
	中山 貴子	練馬区立南が丘中学校
	升岡 佳代	練馬区立大泉北中学校
	高野 朱未	練馬区立谷原中学校
	志村 美智子	練馬区立練馬中学校
	梶山 日花	練馬区立豊玉中学校
	東倉 洋	練馬区立豊玉第二中学校
	岡田 恭子	練馬区立大泉中学校
	倉科 幸雄	練馬区立大泉第二中学校

編集・配信局

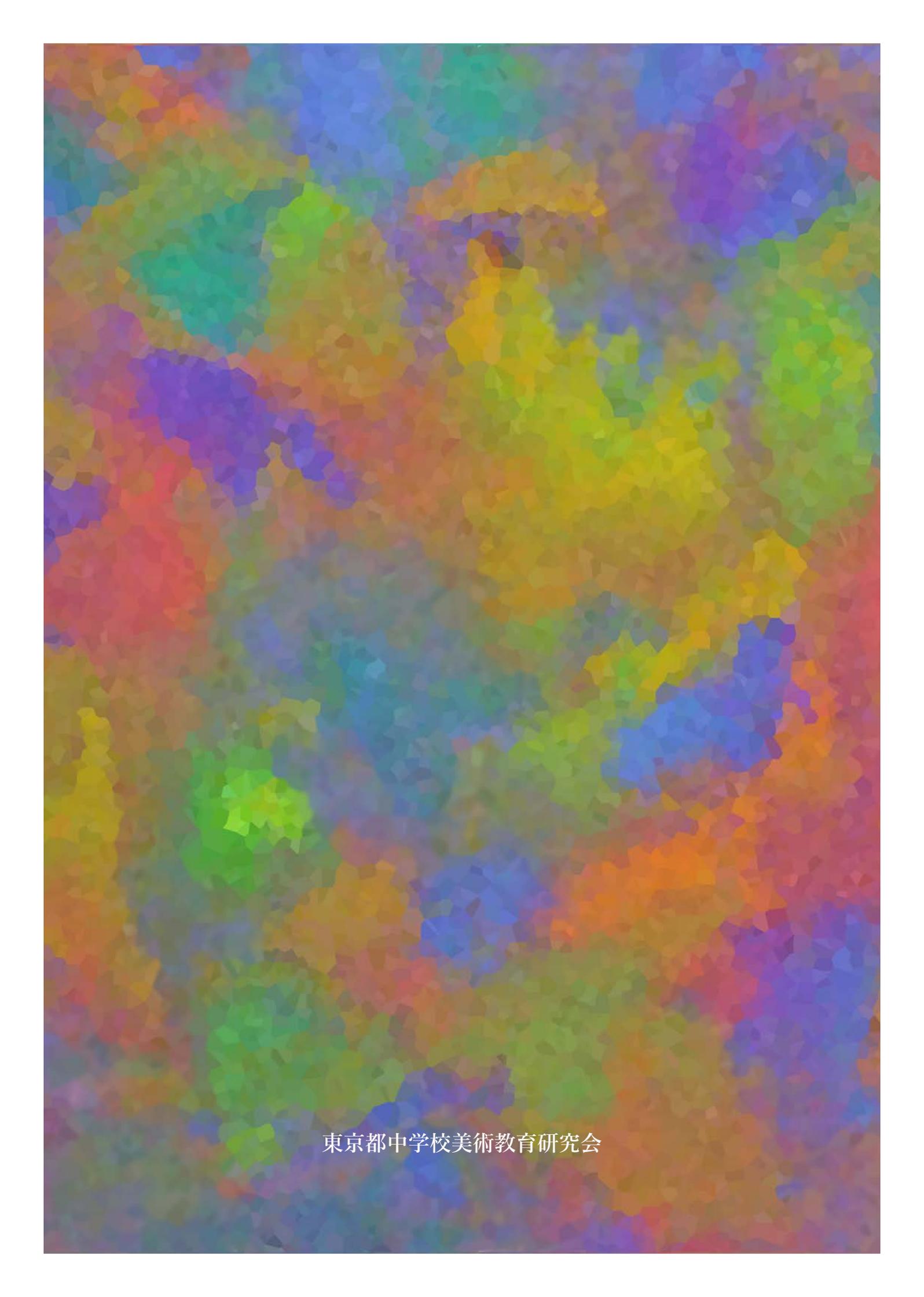
局長	志手 伸圭	練馬区立石神井中学校
次長	二宮 智徳	杉並区立井草中学校
局員	三浦 萌絵	中野区立中野中学校
	色平 野々花	練馬区立中村中学校
	橋本 運大	練馬区立石神井東中学校
	澤井 健人	練馬区立石神井西中学校
	吉野 寿代	練馬区立石神井南中学校
	森 具視	練馬区立大泉学園中学校
	小林 秀樹	練馬区立関中学校
	松永 覚子	杉並区立杉森中学校
	西野 麻侑	杉並区立井荻中学校

庶務局

局長	松尾 美恵	杉並区立天沼中学校
次長	伊藤 範彦	練馬区立光が丘第一中学校
局員	瀧本 真央	杉並区立大宮中学校
	半本 藍	練馬区立開進第一中学校
	鶴田 梨成子	練馬区立開進第二中学校
	桑田 友亮	練馬区立開進第三中学校
	川田 渚	練馬区立開進第四中学校
	松波 由香	練馬区立貫井中学校
	上條 美穂子	練馬区立豊溪中学校
	伊藤 由李	練馬区立光が丘第三中学校

第40回 東京都中学校美術教育研究会
第3ブロック（中野・杉並・練馬）杉並大会 報告書
なぜ、美術を学ぶのか

発行	2024年4月30日
発行者	東京都中学校美術教育研究会
代表	会長 横枕 耕史 大会実行委員長 渋谷 里美
事務局	大会事務局長 猪口 正和



東京都中学校美術教育研究会